

2019年10月30日

心筋梗塞発症歴のある高コレステロール血症患者と 循環器内科医との意識調査結果

心筋梗塞や高コレステロール血症に関する説明内容や認識におけるギャップが浮き彫りに

サノフィ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:ジャック・ナトン、以下「サノフィ」)は、脂質管理に関して患者と医師との認識の相違やコミュニケーションの現状について理解を深める目的で、心筋梗塞の発症歴がある高コレステロール血症患者さん 100名、循環器内科で心筋梗塞患者を診察している医師 100名に対するオンライン意識調査を実施しました。

主な調査結果は以下の通りです。

1. 心筋梗塞を発症した患者の 70~80%が心筋梗塞を発症して不安を抱いたと認識する一方で、医師が実際に不安を訴えたとレポートした患者の割合は約 30%にとどまりました。不安の内容としては、「また発症するのではないか」が最も多く、心筋梗塞発症の回数が多い患者では、「死ぬ可能性があるのではないか」という不安が高くなる傾向が出ています。
2. 心筋梗塞に関する患者への説明については、医師は説明項目全体にわたり、80~90%の割合ですべての患者に説明しているものの、患者側での認識とは乖離が見られました。例えば、「心筋梗塞の再発を起こす可能性があること」では、92%の医師が説明したと回答した一方、57%の患者が説明を受けたと認識しています。また「心筋梗塞の再発予防のために薬を使用し続けることが重要であること」に関しては、93%の医師が説明をしたと回答しましたが、その説明を受けたと回答した患者は 63%となっています。
3. 高コレステロール血症に関する説明についても患者と医師の間に差が見られ、「高コレステロール血症治療のための LDL コレステロール値の治療目標値について」の説明は、92%の医師が行ったと回答した一方で、説明を受けたと認識した患者は 31%にとどまりました。また、「高コレステロール血症の治療のために、LDL コレステロール値を下げるのが重要であること」の問いには、医師が 92%説明を行ったと回答し、患者では 49%が説明を受けたと回答しています。この他、「高コレステロール血症の管理をすることが、心筋梗塞、脳梗塞の再発を防ぐのに重要であること」については、89%の医師が説明を行ったと回答し、一方で 58%の患者が説明を受けたと回答しています。
4. LDL コレステロール値に対する認識については、目標値とする LDL コレステロールに関して、医師の約 60%が「患者は把握している」と答える一方で、自分の LDL コレステロール目標値を把握していると回答した患者は約 20%でした。



これらの調査結果から、心筋梗塞を発症した患者と医師の間では、再発といった不安への認識、心筋梗塞に関する説明内容、さらには高コレステロール血症に必要な LDL コレステロール治療目標値などにおいてギャップがあることが浮き彫りになりました。これらを受け、より効果的なコミュニケーションの必要性が示唆される調査結果となりました。詳細は、別紙をご覧ください。

サノフィは、脂質治療におけるアンメットニーズに応えるため、高コレステロール血症治療に一層貢献してまいります。

サノフィについて

サノフィは、健康上の課題に立ち向かう人々を支えます。私たちは、人々の健康にフォーカスしたグローバルなバイオ医薬品企業として、ワクチンで人々を守り、革新的な医薬品で痛みや苦しみを和らげます。希少疾患をもつ少数の人々から、慢性疾患をもつ何百万もの人々まで、寄り添い支え続けます。

サノフィでは、100 カ国において 10 万人以上の社員が、革新的な医科学研究に基づいたヘルスケア・ソリューションの創出に、世界中で取り組んでいます。

サノフィは、「Empowering Life」のスローガンの下、ヘルスジャーニー・パートナーとして人々を支えます。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。



<別紙>

概要

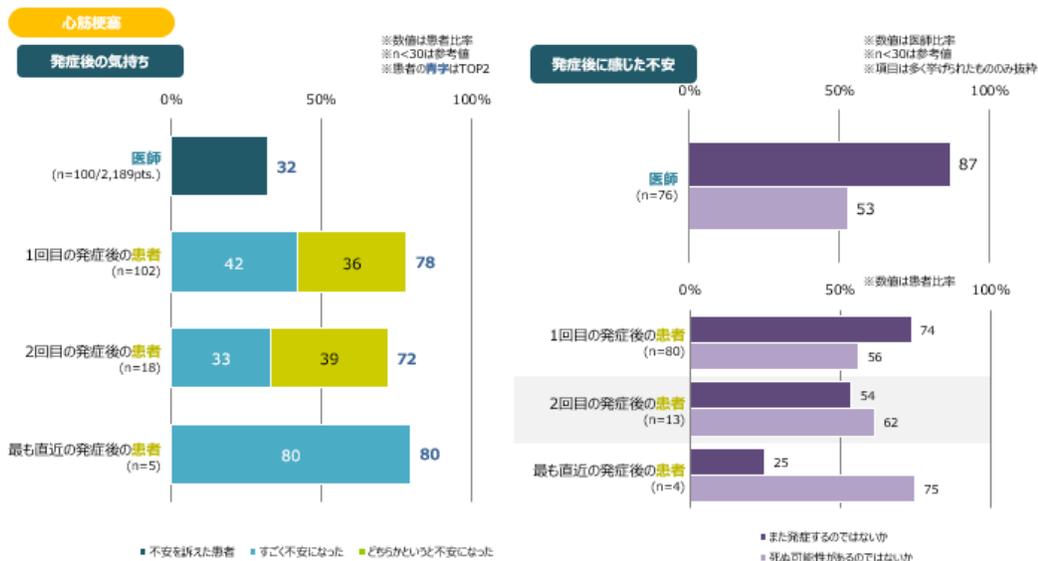
実施時期	患者 2018年12月27日から2019年1月29日 医師 2019年1月18日から2019年2月6日	
調査手法	インターネットリサーチ	
調査地域	全国	
調査対象	患者調査	心筋梗塞の発症歴がある高コレステロール血症患者
	医師調査	HP/GP 循環器内科医

調査結果

1.

【心筋梗塞】発症後の気持ち

- 心筋梗塞を発症した患者の7~8割は、心筋梗塞を発症して不安を抱いたと認識している。しかし、医師に実際に不安を訴えた患者は3割程度に留まる。
- 心筋梗塞発症後に感じた不安の内容としては、「再発に関する不安」が医師でも患者でも最も多く挙げられた。また心筋梗塞を発症した回数が多い患者では、「死ぬ可能性」に不安を感じる患者が多くなる傾向が見える。(n<30のため参考値)

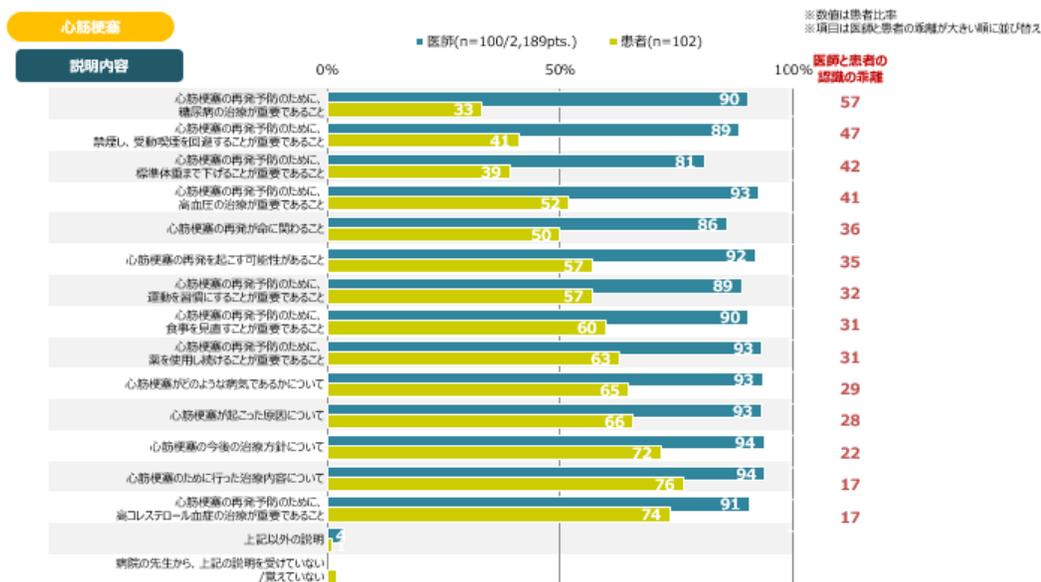




2.

【心筋梗塞】患者への説明状況

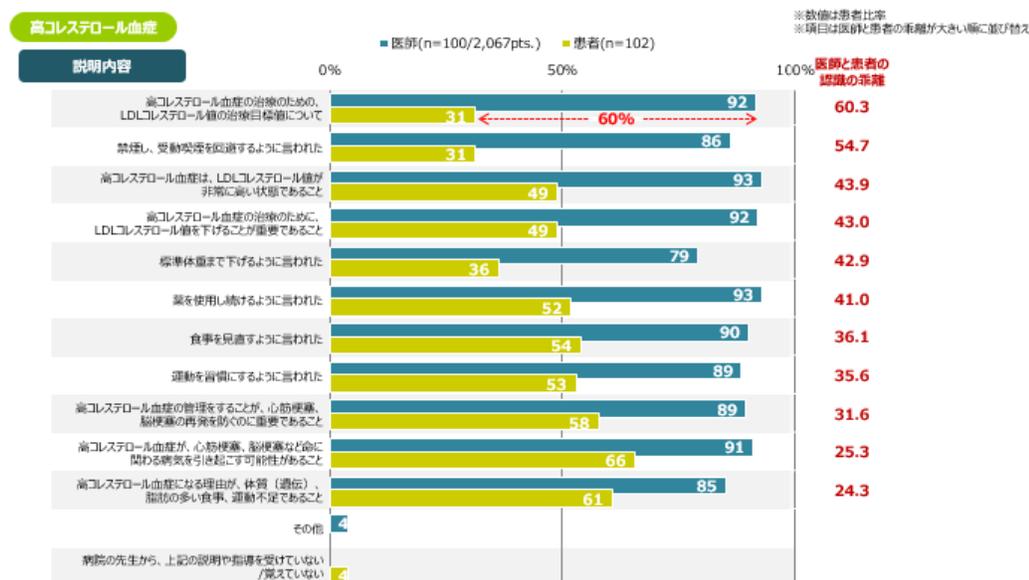
■心筋梗塞に関する患者への説明状況は、医師は下記の内容についてほぼ全ての患者に説明したと認識している。
■しかし、説明を受けたと認識している患者割合とは乖離がある。



3.

【高コレステロール血症】患者への説明状況

■高コレステロール血症に関する患者への説明状況も心筋梗塞と同様に、医師と患者との認識に大きな乖離が見られる。
■特にLDLコレステロールの目標値については、医師はほぼ全ての患者に説明したと認識している。しかし、患者は3割程度しか説明されたたと認識していない。





4.

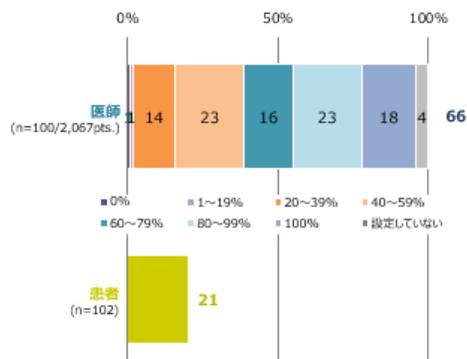
【高コレステロール血症】LDLコレステロール値に対する認識状況

- 自身のLDLコレステロール目標値を把握している患者割合は、医師は6割程度だと考えている。しかし、実際に把握している患者割合は2割程度にとどまる。
- また患者が想定しているLDLコレステロール目標値は、医師が設定している数値よりもやや高い。

高コレステロール血症

LDLコレステロール目標値を把握している患者割合

※数値は患者比率



患者/医師が想定するLDLコレステロール目標値

※数値は平均値

※医師：目標値を設定している医師のみ

※患者：目標値を認識している患者のみ

